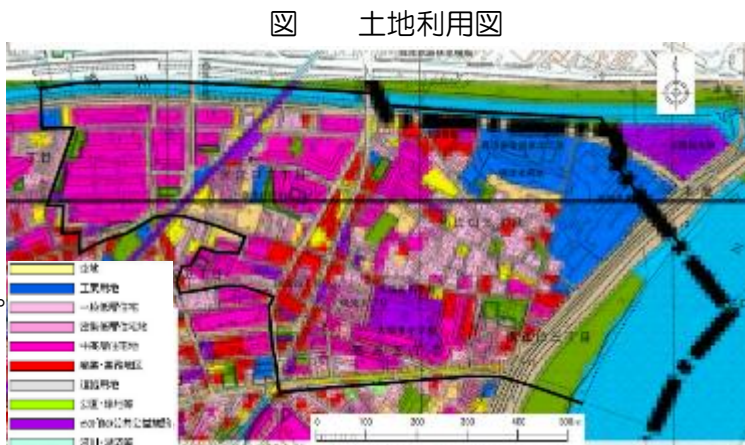


(2) 土地利用

本地域の土地利用は、住宅地が広がり、教育機関などの公共施設や商業・業務施設、工場などが東部にみられる。全体に中高層住宅が多く、東部には、低層住宅が分布している。

商業業務施設は小規模なものが中部などに分布している。

学校などの公共施設は中部など、公園は小規模なものが点在している。



資料) 国土地理院

(3) 道路網

本地域の幹線道路は、中部の大阪高槻線が南北に通っている。本地域内には広幅員の幹線道路は少ない。

区画道路は、一般の生活道路で、乗用車の対向が可能な幅員の道路で、中部や西部などにみられる。

狭隘道路や行止り道路は、乗用車の対向がしにくいかできない道路や袋小路となった行止りの道路で、東部、中部、南部などにみられる。



作図) ランドシステム研究所、岡本

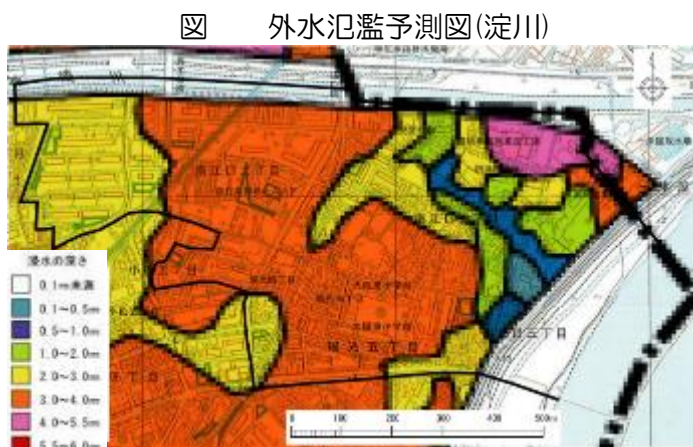
2-4. 災害予測

(1) 水害予測

① 淀川外水氾濫

淀川の外水氾濫予測図によれば、本地域は、浸水深の最大は4m～5mで、この区域は、北東部にみられ、中部では3m～4mの浸水深、西部で2m～3m、東部で1m前後となっている。

収容避難所である大隅東小学校は、1階まで浸水する予測である。



② 神崎川・安威川 外水氾濫

神崎川・安威川の外水氾濫予測図では、

作図) ランドシステム研究所、岡本

図 内水氾濫予想区図

本地域は、全体に浸水が発生しない予測となっている。

③内水氾濫

内水氾濫予測図によれば、本地域は、0.1m～0.5mの浸水深が中部から東部にかけてみられ、一部では0.5m～1mの浸水となる予測となっている。



作図) ランドシステム研究所、岡本

(2)地震予測

①震度予測

南海トラフが活動した時の震度予測は、震度予測図によれば、本地域は全域が震度6弱の激しい揺れが発生するものと予測されている。上町断層が活動した地震では、全体に震度6強、東部で震度7の揺れが発生すると予測されている。



②液状化

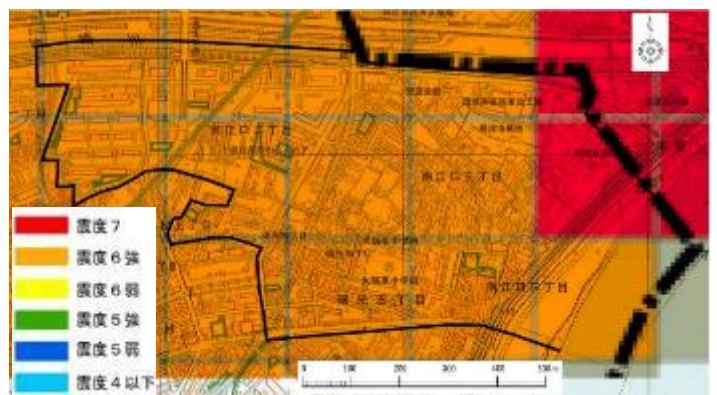
地盤の液状化はその土地の地下に堆積する砂層の分布や固結度、地下水位などの状況により大きく変化する。

本地域の液状化の危険性は、全般に高く、液状化が発生しやすいと予測されている地区が広がっている。

(3)南海トラフの巨大地震の予測

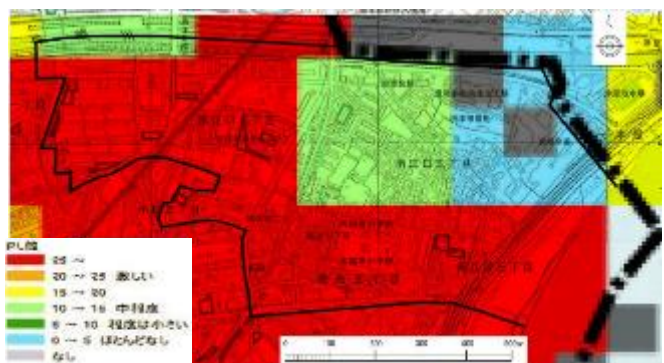
平成25年8月に、大阪府から発表された予測によれば、これらの地震が連動して発生すると、大阪市付近は震度6強～6弱の揺れが発生し、大阪港付近には110分後に、約5mの津波が到達すると予測されている。

図 震度予測図



資料) 大阪市

図 液状化予測図



資料) 大阪府